

## むらに活力をあたえた農業者の健康管理活動

富山県小杉農業改良普及所

生活改良普及員 長谷川 静 子

### 1. はじめに

近年の厳しい農業情勢の中で「足腰の強い農業経営」と「地域農業の推進を図る」ために、その主体者である農業者の健康管理対策は最も重要な課題である。

その指導対策の一環として、昭和57年度より複合経営農業者健康生活対策特別事業を実施し、生産や生活にかかわる健康阻害の要因を探り総合的な健康管理対策を樹立。重点集落を核とした地域ぐるみ健康管理活動を展開してきた。その概要について報告する。

### 2. 対象地域の概要

大江地区は、国鉄小杉駅より北へ2 km、国道8号線ぞいにある平地農村である。農家戸数 340戸、内専業6戸、第一種兼業農家86戸、第二種兼業農家 248戸の水稲単作地帯である。富山新港の背後地として、年々中小企業の進出や宅地化がすすみ、むらの環境が著しく変化している地域である。

#### <地区選定の背景>

- 水田利用再編対策第二期目を迎え、当時大江集落では、104戸の農家が県下に例のない13.4haの大規模な集団転作と取り組み小杉町の農業振興地域としても、その成果が期待されていた。
- 兼業化がすすむ中で、農業の担手が婦人や高齢者に委ねられ、健康障害をうったえる人が多く、住民検診の受診率も34%と他地区と比べ健康管理意識が極めて低かったこと。

- 若者の農業離れが著しく、むらの活力が低下しつつある等のことからである。

所内で検討した結果、「健康で豊かなコミュニティを基盤とした集落営農」を推進するために、活動計画の素案づくりをし、それをもとに集落リーダーの合意と協力を求めながら自主的に課題解決が図られるよう、プロジェクトチームを編成し積極的に誘導援助を行った。

### 3. 主な普及活動の内容

目標・集落ぐるみでとり組む、健康で活力あるむらづくり

- (1) 実態把握
  - ㊦ 健康に影響をおよぼす生活・生産行動調査と生活・生産環境調査
  - ㊧ 医師による健康調査、自覚症状、農夫症候群調査
  - ㊨ 総合判定会議と問題点の整理
- (2) 既存組織の代表者及びモデル農家(107戸 106名)を対象とする調査結果報告会と改善対策の樹立——集落毎の活動目標設定
- (3) ——健康で活力あるむらづくり推進体制の整備
- (4) ふるさと健康づくり大学校の開催
  - ㊦ “私達の健康は私達の手で..をスローガンに婦人組織総ぐるみの運動展開。
  - ㊧ 自家生産物の活用とバランスのとれた食生活の講習会、研修会の開催  
農繁・閑期の食事診断の実施
  - ㊨ 積極的な疲労回復の工夫と体力づく

り

- ㊤ 安全で働きやすい農作業衣の改良・試作と共同縫製
- ㊦ 計画的家庭菜園づくりと有色野菜の苗全戸配布
- (5) 地域ぐるみ健康管理活動の推進
- ㊧ 健康で豊かなむらづくり推進大会開催

健康なくらしの工夫展・体験発表会

- ㊨ 標語集作成全戸配布

- ㊩ 村ぐるみ行事の実施

ふるさと祭り・納涼盆踊り大会・収穫感謝祭の復活と恒例化

生産組合対抗ソフトボール大会等の体力づくり活動など。

#### 4. 活動の成果

- 農業者の健康管理に対する関心が高まり意識に大きな変化が見られるようになった。

##### (1) 健康調査の変化

図1

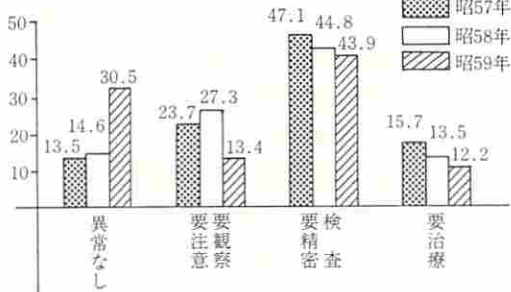
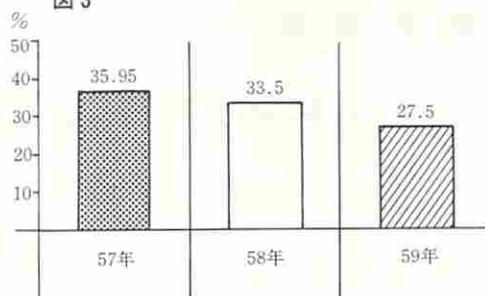


図2

	57年	58年	59年
肩こり	71.6%	67.6%	57.3%
腰痛	63.5	62.5	54.8
手足のしびれ	29.3	26.1	23.2
夜間多尿	52.1	46.6	37.8
息ぎれ	13.4	10.2	4.9
不眠	22.6	22.7	10.9
めまい	21.6	20.4	17.1
腹はり	13.4	12.5	12.2
計	35.9	33.5	27.3
調査人員	89人	96人	82人
有症者割合	35.95%	33.5%	27.3%

図3



#### 農業生産・生活改善状況の変化

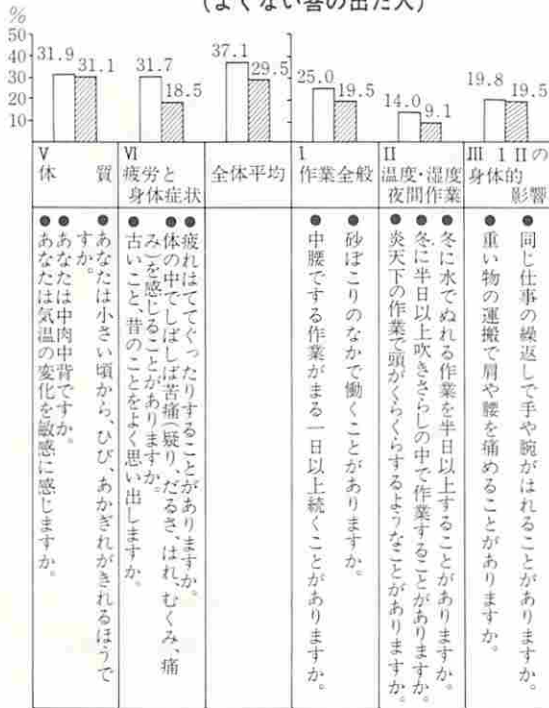
##### (1) 生活行動失点のまとめ

(よくない答の出た人) 昭57年 (斜線) 昭59年



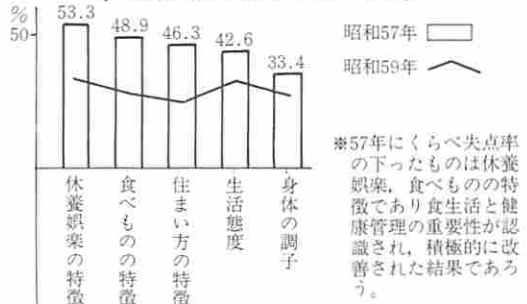
(2) 生産行動失点のまとめ

(よくない答の出た人)



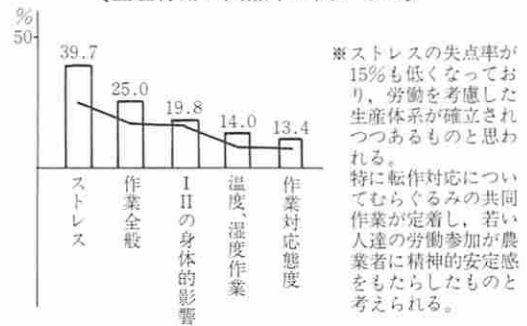
● 昭和59は57年にくらべ失点率は全般的に低くなっている。

〔生活行動の失点率の高いもの〕



※57年にくらべ失点率の下つたものは休養娯楽、食べもの特徴、健康と生活の重要性が認識され、積極的に改善された結果である。

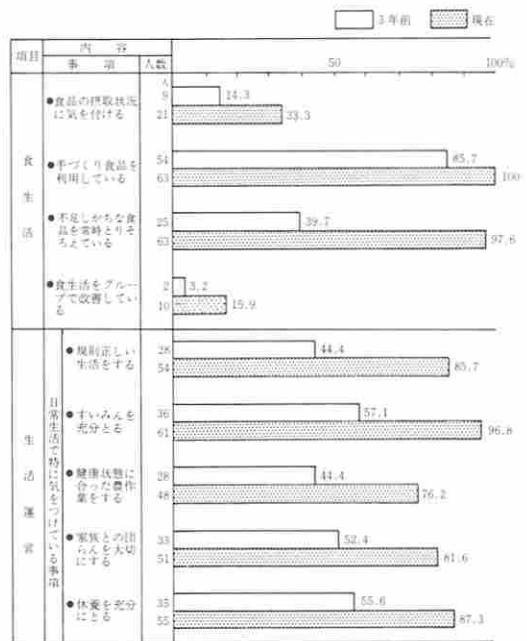
〔生産行動の失点率の高いもの〕

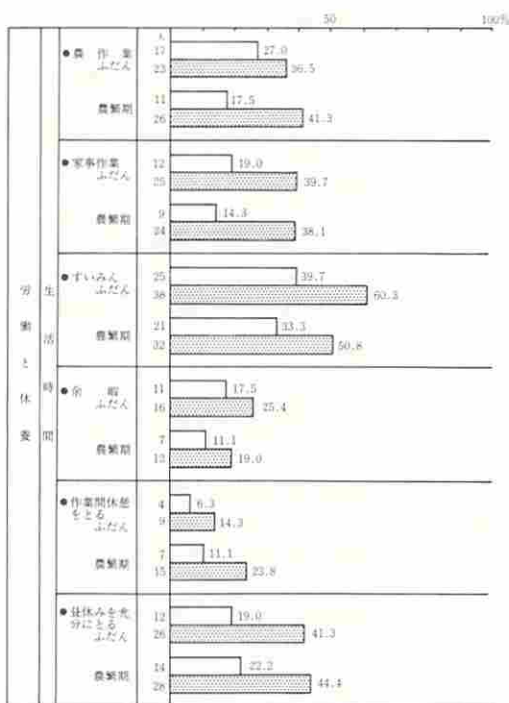
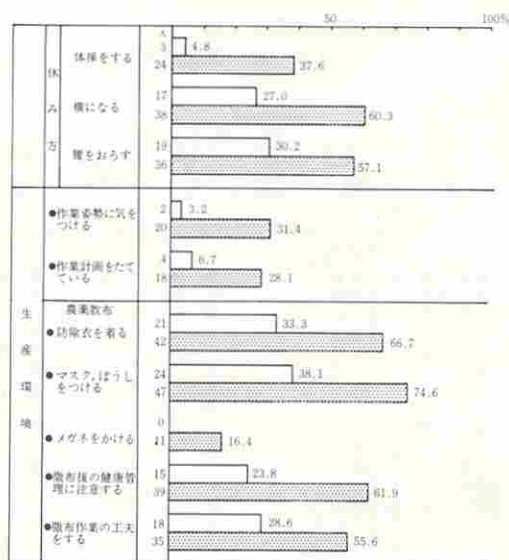
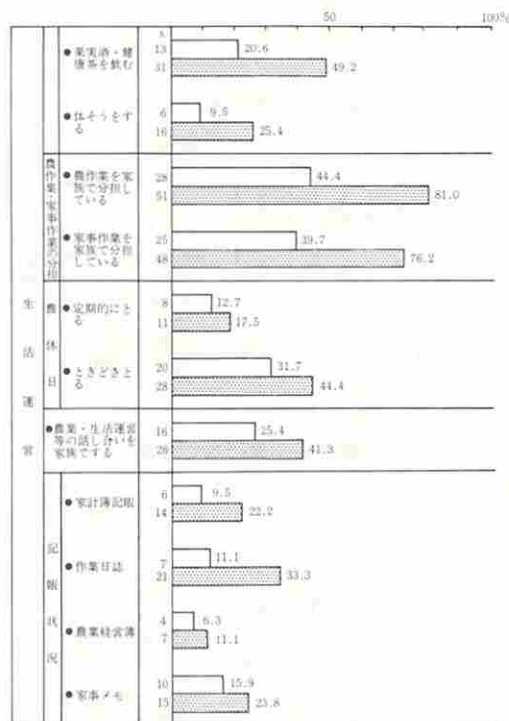


※ストレスの失点率が15%も低くなつており、労働を考慮された生産体系が確立されたと思われ、特に転作対応についてむらぐるみの共同作業が定着し、若い人達の労働参加が農業者に精神的安定感をもたらしたものと考えられる。

農家生活状況の変化

調査対象63名





● 自分自身の健康状況の把握により、生活や生産のやり方を工夫・実践し家庭生活を大切にするようになった。

● 農業者自らが問題をとらえ、主体的にその解決を図ろうとする、ふるさと健康づくり大学校の開設や、大江いきいき対策推進協議会の設立によって、学習と実践が結びついた豊かな組織活動としてとり組まれるようになった。

● 自治会・生産組合・婦人会・農協婦人部青年会・母親クラブ・高齢者クラブ等の各組織や世代間交流によって集落ぐるみ活動へと発展し連帯意識が高まり集落が活性化し若年リーダーが育成された。

さらにこれらの活動を推進するための条件整備として、厚生連健康管理課、小杉町厚生課、小杉町農協、保健所、普及所の関係者が重点指導地区健康推進委員会を開き、連絡調整及び戦略会議によって、緊密な連携のもとに一体的活動をすすめ、地域ぐるみの健康管理体制を確立したことが、住民から指導機関に対する信頼を得ることになり、その成果につながったものと思う。



水稲経営における作業状況と改善された事項

項目	1		2			3			4			5			6			7			8			9			10		11		12	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
作業	<p>●育苗準備 ●床土準備 ●種づめ ●ハウス作り</p> <p>あぜ塗り 稲耕 基肥施肥 代草刈散布 田植え 補植・早期追肥 除草剤散布 手漕振り むら直し追肥 メイ虫防除 早期追肥 早生穂肥 総合防除 早生実肥 晩生穂肥 晩生実肥 総合防除 早生収穫調整 中生収穫調整 晩生収穫調整 秋耕し 農機具の調整</p> <p>用水補修 育苗は種 あぜ塗り 育苗管理 あぜ草刈り</p> <p>管 理</p>																															
	<p>融雪後 第一回追肥</p> <p>融雪後 第二回追肥</p> <p>赤かび防除① 赤かび防除②</p> <p>収穫大麦</p> <p>耕は 起種</p> <p>第一回培土 第二回培土 病害虫防除 病害虫防除 病害虫防除 (病害虫防除)</p> <p>耕 起 種</p> <p>は 種</p> <p>年 内 追 肥</p>																															
	<p>作業上困っている事項</p> <p>【耕起作業】 1. 機械作業が長時間続く 2. 寒威に応じた作業衣が着用されにくい 3. 土畦畔が多く、あぜ塗り作業が続くため腰痛を訴える人が多い</p> <p>【田植え準備と田植え作業】 1. 歩行型田植機が大半で重労働が続く 2. 連続作業で休けい時間がとれにくい 3. 苗運び、田植え作業はぬれて冷える 4. 補植作業は前かがみの姿勢が長時間続き大変である</p> <p>【農薬散布作業】 1. 防除期は暑い時期が多く、安全な装備がされにくい 2. 大豆、大麦の栽培に伴い防除作業が多くなった</p> <p>【草刈作業】 1. 小石、草の切れはしがはねかえるのでケガをすることがある 2. 草刈機の振動が身体にひびき手がしびれる</p> <p>【収穫作業】 1. コンバイン操作時の騒音が耳にひびき、耳なりがする 2. 作業中は作業間休けいがとれにくい 3. もみ袋の運搬が大変である 4. 大麦、大豆の収穫は種作業が重なる。特に秋は晩生稲の刈り取りと重なり重労働 5. 大豆の収穫は手作業、腰まげ作業が多い</p>																															
<p>※改善事項とその成果</p> <p>●冷え防止作業衣の整備 67% (重ね着、防寒作業衣の共同作成) ●作業間休けい、体そうの励行 23.8% (腰痛体そう、ぶら下り運動実施) ●家族間の話し合いと役割分担 76.2% ●ストレスの解消 39.7% ●機械の点検と事故防止 (始業前後の点検と安全な操作)</p> <p>●冷え防止作業衣の改善 (ナイロンタフター前かけ、作業上下の改良) ●腰痛道放棄のばし体そうの励行 25.4% (のびのび体そう実施) ●家事分担と労働に見合った食生活 ●補植作業の見直し ●体養を充分にとる 87.3% ●農作業を家族で分担する 81%</p> <p>●防除衣、補護具の着用 66.7% ●改良防除衣・メガネ・マスク着用 ●農薬散布後の健康管理 38.1% (話し合い、啓もう資料配布) ●作業衣の防水加工実用 55.6%</p> <p>●草刈作業時の安全装備64% (袴のつまった作業衣、手袋の着用) ●機械の点検と安全操作 ●作業間休けいにより気分をほぐす</p> <p>●労働に見合った食生活改善をする 71.2% ●小昼に牛乳、果物をとる 97.6% ●作業手順の計画と共同作業実施28.1% ●稲+麦+大豆作業体系の改善 97.6% ●作業間休けい、体そうの励行 44.7% ●健康に見合った農作業をする 76.2%</p>																																

## 5. おわりに

濃密指導集落活動が核となり、地域社会活動として定着しつつあるなかで、今後ますます個々の農業者が自ら健康管理対策に留意することを基本として、地域においても農業生産活動や家庭生活運営全体にかかわる総合的な対策が重要である。

生産面では、稲作の生産体系の確立をめざした健康で生産活動にとり組むための集落営農振興計画の樹立。生活面では、家庭が労働

力の再生産の場として、主婦の総合的な家庭管理能力を高めつつあるおいのあるくらしの実現と高齢者の生きがいを考慮した労働集積による共同作業の実施（労働バンクの設立と集落営農への活用）等「農業者にとって健康で人間性豊かな農家生活を維持しながら、生産性の高い農業経営の確立」が図られるよう、健康な生活と生産の調和を求めて実のある活動が定着するようさらに援助したい。